（大正十年四月二十二日第三種郵便物認可）　昭和五年八月九日　豐城新聞　［土曜日］　第二千九百一號　［一］

「蚤蚊蠅蚋蚤蚊蠅蚋蚤蚊蠅蚋

海水浴客の 運搬競爭激烈
平町旅客自動車が 平署で嚴重取締

平町地方の自動車交通網は近年急速な發達をなし之に伴ふ交通事故の頻發に鑑み徹底的取締をなすべく平署當局では不斷の努力を惜まぬが市内營業者は十數軒に及び之が運轉手助手を合ー百名近くあり乘合貨物自動車數も五十臺を突破し縣下有數の自動車街と知られ自然事故が頻發し平署管内の四月から七月末日まで大小傷害は一日平均一件以上に達し當局も呆然としてゐる是の最大原因とも云ふべきものは營業者同志の激烈なる競爭と運轉手の不注意に依るものである何自動車事故中タクシーの事故は皆無と言つても良い程で事故は各部乘合である殊に四倉方面へ海水浴客運搬に競爭益々激烈となり六丁目鎌田町方面は危く大人、さい危險を感じてゐるもので新川町方部の如きは苦情を提出したほどで各平町の關門に住居する人々は恐怖を感じ、ゐる狀態でこの點に就て當局は取締の良策を考究中で若し此の如き理由で事故があつた場合は嚴重に處罰をなす筈である

事務所樓上で開催するが講師は城島技師外數名で一般の聽衆を歡迎すると

夏期衛生の 普及映畫 各町村で公開

平町いはき新報社主催夏期衛生普及映畫の無料公開は左記日割で各町村に開催するが映畫は「耕すは誰」四卷「應急手當醫者の來る迄」二卷外數卷で平、四倉、植田各署長の衛生講話があると時節柄機宜に適した催しとして前人氣を博してゐる

十二日四倉町同大浦村十三日平町同平窪村十四日豊間村同江名町十五日入山グランド同磐城十六日片倉同飯野村十七日好間村同小田礦十八日小名濱同泉村十九日植田町同山田村

濱三郡木炭組合の 節約は無用と 幹部案に對して 代議員會が反對

濱三郡木炭同業組合では過般の評議員會において豫算節約に伴ひ檢査員數料及び組合長報酬、檢査員俸給から旅費日當に至るまで年額約三千圓を減額する事を申合せ近く臨時代議員會を開き提案の上、決定する事となつたが、約八十名の代議員中半數以上は組合の豫算を緊縮して間接に生產費の低減を圖つても販賣者が暴利を貪るが如き事あつては折角の苦心も水の泡となり、木炭組合は他の産業組合と趣きを異にしてゐるから何も減額までする必要はあるまいと節約反對を叫んでゐるから、果して幹部案が實現されるかどうかは頗る疑問とされてゐる

養鷄講習 九日平町で

石城郡農會主催養鷄講習會を九日午前九時から平[illegible]

本縣政界の 發達史(二)

明治十五年十二月一日、福島にはもう雪が降つてゐる。その夜、警官の一隊は無名館を圍み、磐洲を捕縛して若松監獄に投じて了つた。磐洲は頭浚の二字は何等内亂の意を含まず、たゞ速かに專制政體を改革して立憲政體を建設、國會を開設しやうといふ意味に外ならぬと主張したが、高等法院は內亂を陰謀した者と判定し、遂に翌十六年二月盟約書に署名した祖母埜秀顯、澁澤寧堅、平島松尾、花香恭次郎、澤田清之助の五名及び同志山口千代作等五十餘名とゝもに內亂陰謀の罪に問はれ、何れも若松の監獄から東京に護送された。同時に官吏侮辱罪、兇徒嘯集の罪に問はれた者、數は實に三千餘名の多數に上り福島縣々政史上に一大暗黑時代を現出したのである。これが福島事件の大體の輪廓である。

磐洲等は苦松から東京に護送されて後鍛治橋監獄に投せられたが、明治十六年二月から大審院に於て數十回に亘る取調を受けた後、九月一日次の如く言ひ渡されたが山口千代作外五十名は何れも證據不十分で免訴釋放された

△輕禁獄七年河野廣中△輕禁獄六年(各通)田母埜秀顯、愛澤寧堅、花香恭次郎、澤田清之助、

○

福島事件に次で高田事件、群馬の獄、更らに加波山事件等が起り、天下の物情は漸く騷然たる者があつた。そして世人をして自由黨は總徒の集團なるが如く疑はしめるに至つた。依つて黨幹部ら鑑みる所あり、十七年十月大阪に於て大會を開き、自由黨を解體するに至つたので、福島支部も相次ぐ解體することゝなつたが、明治二十年後藤伯の大同團結成り、次で二十三年自由黨の再興成るに及んで縣支部も再び設立され、無名館內に事務所を置いて第一回總選擧を迎へることゝなつた。

第一回總選擧は明治二十三年七月一日を以つて執行されたが、自由黨員として當選したものは定員七名中僅かに河野廣中、鈴木萬次郎の二名であつた。が次で二十五年二月の第二回總選擧では、例の品川內相の空前の選擧干渉下で、小笠原貞信、河野廣中、鈴木萬次郎、愛澤寧堅の四名を出し更らに第三回第四回の總選擧に於ては自由黨は何れも大勝利を占めて黨勢大いに擧つた。だが、同三十年河野廣中が多數の同志を率ひて突如自由黨を脫黨するに及んで再び自由黨の受難時代が來た。

河野の脫黨で縣の自由黨支部は色を失つた、相馬の松本孫右衛門は早速上京して河野に脫黨の意志を飜させるようにすゝめたが河野はどうしても諾かなかつた。河野の選擧區では郡山で有志大會を開き、更らに福島高成館で臨時總會を開くなど自由黨支部は上を下への大騷ぎであつ。そして遂に自由黨支部を本部より分離することを決議し、平島松尾、松本良七、安瀬敬藏等が福島自由俱樂部とすることにした。一方脫黨した河野等は東北同盟會を組織し大いに進步黨の黨勢擴張につとめた。

浴客溺死 江之網海岸で

七日午後零時頃久之濱町字江の網海岸に於て石川郡石川町柳沼政國(一九)は親戚のものと四倉海岸浴場に向ふ途中江の網港口を横切らんとして水泳中遂ひに溺死した四倉署員、消防組員、漁夫連が死體捜査中同日午後三時半頃漸く死體を發見四倉松本署長の檢死の上親戚の者に引渡した

船具泥專問 栃木縣の 未青年 遂ひに檢擧

栃木縣那須郡黑羽町神長清一(二九)假名は本年春以來小名濱町を中心に船具泥專門

を働へてゐたが七日植田署に檢擧受調べの結果同町竹村福次郎方の揚水ポンプ一臺價格八十圓を竊取したが外數件の窃盜を働へた事を自白した

國産品講演

十二日午前九時から平第三校で縣商工課礦政磯谷課長の國産品に關して講演ある由午後七時からは畜産業校庭で映畫を開催するが一般出席を希望すると

平町地方の 傳染病 益々蔓延

平署管內における惡疫は最近益々蔓延し石城郡上湯長谷小野田炭礦坑夫長屋の腸チブス患者が續出し廿名に達したのを初め腸チブス患者は六日までに總數六十六名となり五日又復左の四名が隔離された程で目下極力防疫督勵中である

腸チブス石城郡磐崎村大字上湯長谷志賀章(二〇)同伊藤ちよ(九)平町四丁目鈴木勇(三)石城郡好間村大字北好間高木あさ(一六)赤痢平町井上康雄(三)

半額の 乘車券交附 平職紹所で 就職者に

平職業紹介所では六日磐崎村三井炭礦坑夫二十二名に對し福岡縣稻築村までの半額乘車券を交附したが同人等は磐崎村から福岡の三井炭礦に轉礦と決定したもので休山後最初の半額乘車券交附者であるなほ同紹介所としては就職の決定してゐる者に對し求人者の紹介あり次第どしどし半額乘車券を交附するので今後は乘車券を請求する者がかなり多く現れるものと見られてゐる

藤原川災害の 復舊陳情に 駒木根村長外村議等 七日出縣す

石城郡玉川村を貫流する藤原川は昨年五月の水害により堤防二ヶ所決潰し假工事を施してゐたが去る一日の後來の豪雨の爲め假工事を施せる堤防再び決潰し玉川村大字住吉、大原、野田、南富田の四部落の水田四百町歩畑百町歩に亘る耕地に浸水し水田は一反二俵半の減收、畑一反歩二十圓見積合計十一萬餘の損害を蒙つたので同村長駒木根忠三外村會議員六名等七日出縣淺見土木課長小柳知事と會見して急速復舊工事方陳情した

平第一校(三) 臨海學校通信

磯の香、オゾンに富む海岸の空氣を思ふ存分呼吸して、三日月の朝を迎へた。蚊帳のたゝみ方もやうやく覺わかけて、朝の掃除、食事、仕事も終つて、勉强坂內先生は黑い毛深い顔に大きい眼鏡で、何かに仕事、そしていつもバットを手からはなさない。

上川、橫田先生は、潮でチヤがれた聲を出して、たまにお話をしてゐる、螢の獻立の事でもあろう。

井上先生はねころんで何かしら考へてゐらつしやる しやれの謎言でも考へてゐるのかしら。

志賀先生は二、三日來の腹痛も大部よくなつたやうでいつもより元氣がよい。

水竹先生は、紫の煙をはき〳〵迷になつて詩集を讀んでゐたが、そのうち氣がよさそうに朝の內から眠つてしまつた。

×

九時午前の海水浴、水はまだ冷い、砂はまだ乾ない海岸で白服姿の、こはいた顔の中に笑顔を見せた、校長先生にた會びする「どうだ。元氣か」そのお言葉をいたゞいた。

盡に歸よ疲かれが出たものか、ゴロ〳〵ところがつて、いつものにぎやかさもおとろへたやうだ。

午後の海水浴、やはり水は冷い、水の中よりも陸の方がよい、砂にまみれながら、先生方と砂の彫刻をはじめる。

まはりは黑山のやうな人だかり、僕等の品々?にみされてゐるやうだ。

×

談話會が開かれました坂內先生の開會の辭に次いで、臨海學校の感想がめい〳〵出る、お家が戀しさうな話も出る。

それから茶菓お話。

小田君の「無人島に漂流した少年」の物味いところ次に四倉の先生、坂內先生の「ヒッポ、タマスの話」水竹先生の童話「五郎兵虫」細辭を出して、僕等を喜ばせる。

藥谷君の「働かない者」で何かしろ我々に教へてくれ井上先生の餘興「シャム」國家で一同腹をかゝへさせられた。

其の他蓄音機等もありねむさも忘れて、樂しい夕をおくつた。

今日立秋 土用もあけ これから一層の酷熱

今年の土用も昨日であけて今八日午後三時五十八分から立秋ではある而しそれは暦の上だけの立秋に過ぎない詩藻を陂る蟲の聲々も、枯尾花もほゝけ芒も未だしくだ、石城地方の暑さは寧ろ之れからが一段と此の酷烈さを加へることであらう。

取消し ●●去六日平町三丁目日木屋カフエー女給松原ミツエ(一九)鈴木マツノ(二三)の兩名が前借を踏倒した云々の記事は事實相違があり取消します

石城聯合青年 陸上競技

石城郡聯合青年團では來る二十八日午前九時より平町磐城中學校々庭に於て陸上競技大會を開催するが種目は左の如くである

百、四百、千五百、一萬米、走高跳、砲丸投、八百メートルリレー、尙劍道、柔道、相撲等

平町の屠殺數

昨七日土用丑の日に平町での屠殺數左の如し

牛三、馬二、豚七、で平常の約二倍であつた

四倉海岸 丑の日 大賑ひ

七日の土用の第二の丑の日の四倉海水浴場の人出は約一萬二、三千の多さに達し浴場は黑山の人出で賑つた

正直な娘 現金を拾ひ屆出ず

四倉町字新町鈴木松次娘サキノ(二〇)は去る七日午後一時頃海水浴場に於て現金四圓三十四錢入の蟇口を拾得浴場派出所に屆出た

郵便配達泣かせの 書狀が多い 宛名不明で平局の沒收 七ヶ月に一千百通

平局では郵便配達人が昨今の暑さ、ひどい爲過激か減食となり配達人も嬉んでゐる郵便局は主として小包や書狀殊に戀文書も多くハガキは宛名も當人の住所姓名を略り省いて居ないのが多いため配達夫は非常に困難で數回足を運ぶ事となり迷惑も甚だしいので至急を要する書狀もこれが爲遲延したり還付不能となつて空局に沒されて終いた互に損ためるこの還付不能書狀は今年一月から七月下旬までに書狀五百九十七通ハガキ五百十一通合計一千百七通の多數でこれらは皆無用に終つてしまうのであるから是非一般が注意して迷惑を掛けぬ樣にし貰ひたいと

磐新塔

●平町鎌田居住荷馬車輓き菅野政吉(三六)はさる三日夜七時頃から平町五丁目街路に馬の手綱も結ばず投げやりにして附近で一杯ひつかけてゐるうちスッカリ好い氣持になつて仕舞ひ馬も車も忘れて浮かれてゐるうち馬は自動車の警笛にびつくりしてあばれ出し通行止めになる騷ぎ平署から係官が馳せ付けたが馬は益々猛り立つばかりで大いに手古摺つた末にやうやく取鎭めたがその爲めに警官の白服は馬糞まみれとなつたは酷暑の折柄氣の毒至極の事であつたが醉ひ倒れた馬子どの警察に引かるゝも夢中本性に返つた處で出し拔けに叱り飛ばされ何やら仔細がわからず「へイ何んでごせねます」

かみくづ

◆女も公權を認められると云ふから、アタイ達も一つ縣會議員になつて、藝者の縣費補助案でも出そうと思つてるわ、ヘン裸一貫の女の身で年に二百圓の縣市稅と、それから玉代につく遊興稅でせうそれが月に百五十圓働いても二十一圓で、ザット年に二百五十圓以方で四百五十圓と云ふものを藝者一人でお上に御奉公してらんですからね、アタイ威張つたものでしよう◆その重大な擔稅者が縣會に發言權を有しないとは何と云ふムジユンでしよう、私が議員になるとウンと藝者の稅金を下げて、國産獎勵の爲め藝者の養成所や縣立で建てゝ、永年勤續の藝者には年金をやるやうにしてソレから遊興稅も撤廢しますからアナタ方今からお禮をたつしやいな(ナンだか眼付まで疑だせ、暑サの爲めか、それとも不景氣何にが?彼の女くるうさせたか」

平町人事

△出生 平町八幡小路七八鐵道官吏小田貞夫七男雄也(一)

△死亡 平町長橋町三十橫濱市神奈川區青木町七軒町三五七六齋藤藤重(二八) 平町仲町十四齋藤平兵衛(七〇) 平町古鍛治町十四小和口トク(三二) 平町紺屋町五佐藤武勝四女ヨシ子(八) 平町立町八五田村郡小野新町八友田一二佐藤寬三女フチエ(二) 平町鍛治町八安積郡河內屋敷五九小野均(一) 平町禰宜町十一栃木縣那須郡金田村中田原一二八一馬次郎妻井上マサ(三三) 平町仲間町五六相馬郡新館村草野本町菅野賢治長女伸子(一)

暑中御見舞

四倉支局 大谷蕊綠

代議士 木村清治

四倉醫師齒科醫一同

東部電力四倉營業所

四倉町長 新妻盛

四倉町會議員 大和田安太郎

四倉町會議員 小港平次郎

四倉町會議員 金成岩吉

四倉町會議員 門馬倉次郎

四倉驛長 二階堂寬

木村醫院 木村守江

旅館 海氣館 電五番

カフエースデージ 新町

四倉藥局 大田政一

四倉産婆組合長 中野トク

東部電力四倉變電所 職員一同

菅波齒科醫院

四倉町會議員 中野捨與

荒川藥局 電一二〇番